

直方市文化芸術審議会 第4回会議 議事録

日 時	令和8年5月19日（火）14：00～16：00
場 所	直方市中央公民館4階 第4学習室
出席者	<p>小島 立（会長）          牛嶋 英俊（副会長）          棟形 和義（委員）          市川 靖子（委員）          曾根 富久恵（委員）          鷲野 彰子（委員）</p> <p>直方市教育員会教育部学校教育課1名</p>
（事務局）	直方市長、文化・スポーツ推進課長、社会教育係長、社会教育係職員
傍聴者	0人
議題	<p>（1） 第3回会議を踏まえた振興計画の修正案について</p> <p>（2） 文化芸術×教育</p>

<p>◎議事録 (事務局)</p>	<p>1. 開式</p> <p>皆さま、本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。定刻となりましたので、第4回直方市文化芸術審議会を開催いたします。</p> <p>本日の会議は、前回審議会の振り返りと計画修正内容の確認、あわせて文化芸術と教育の連携をテーマに議論を行います。</p> <p>また後半では、直方市教育委員会教育部学校教育課の方にお越しいただき、現場のご意見をいただきながら活発な意見交換ができればと思います。</p> <p>それではここからの議事進行につきましては、小島会長にお願いしたいと思っております。小島会長、よろしく願いいたします。</p>
<p>(会長)</p>	<p>暑い中、少し早めに会場に到着しました。遠賀川を渡って歩いてきましたが、とても気持ち良かったです。前回は議論の時間が長くなり、タイムマネジメントがうまくできず申し訳ありませんでした。今日はできる限り時間に気をつけながら進めたいと思っております。</p> <p>それでは、議事に入ります。計画の修正案について、事務局からご説明をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>2. 議題 (1) 第3回会議を踏まえた振興計画の修正案について</p> <p>それでは、第3回審議会にいただいたご意見をもとに、計画案をどのように修正したかについてご説明します。配布資料の「第3回審議会を踏まえた計画案の修正について」という資料に沿ってご説明いたします。今回の修正は大きく2箇所です。</p> <p>めくっていただき、表紙の裏の「今回の修正・追記の概要」です。まず全体のご確認です。</p> <p>修正箇所は、①1.5節『直方市の文化的特性』への追記と、②基本施策4-⑤『文化芸術×観光』の記入の2点です。いずれも第3回の委員の皆様のご意見と、商工観光課との意見交換を反映したものです。順番にご説明します。</p> <p>次のシート「修正①1-5節直方市の文化的特性への追記」です。1.5節『直方市の文化的特性』に、新たに(3)『炭鉱以前から続く、直方のまちの歴史』を追加しました。第3回審議会でも、『炭鉱だけでなく、それ以前の多様な歴史も含めた整理が必要ではないか』というご意見を複数の委員の方からいただきました。</p> <p>これを受け、炭鉱×市民文化の二層構造はそのまま維持しつつ、そこに歴史の奥行きを加える形で新たな項目を設けました。具体的には、長崎街</p>

道の宿場町・城下町としての歴史、鉄道拠点としての歴史、遠賀川の水運と商業地としての発展、水町遺跡や吉田初三郎の鳥瞰図など各施設に分散する文化資料、これらを直方市固有の文化的土壌として明記しています。

続いて次のシート「修正②基本施策 4-⑤文化芸術×観光の記入」です。「基本施策 4-⑤『文化芸術×観光』について、これまで空欄となっていた『現状と課題』『実行プランの目的』『取り組み例』の全項目を記入しました。

現状と課題では、チューリップフェアや高取焼など観光資源はあるものの、『直方でしか体験できない』唯一性が弱いこと、宿泊施設の不足で来訪者が市外に流れてしまうことなどを整理しています。

実行プランの目的では、文化芸術を観光の手段にするのではなく、文化芸術が主体となりながら観光へ波及する仕組みを目指すこととしました。

取り組み例としては、SL 展示と図書館・石炭記念館の連携、高取焼の体験型プログラムの充実、文化施設が集積する中心市街地の賑わい創出、近隣自治体との広域連携など、社会教育係を中心として実施可能と考えられる4項目に絞って記載しております。

以上が今回の2点の修正です。委員の皆様のご意見がしっかり計画に反映されているか、ご確認いただければ幸いです。追加のご意見や修正のご要望があればぜひこの場でお聞かせください。

(会長)

ありがとうございます。それでは、15～20分程度ですが、先ほどご説明いただいた修正内容について、皆様からご意見をいただきたいと思えます。大変多くの資料を頂戴しており、事務局の方で非常に細かい部分までまとめていただいているかと思えます。ただ、まだ取り込めていない箇所や、前回ご発言いただいた委員の方の意図と少し食い違っている部分もあるかもしれません。忌憚なくご意見をいただければと思います。また、方向性として「こういうふうに軌道修正した方がよいのでは」という点がございましたら、ぜひご指摘ください。

主な点ですが、「炭鉱以前の直方市の歴史について」「文化芸術と観光を掛け合わせた施策（第3版に反映してほしい内容）」です。どこからでも構いませんので、ご意見があればお願いします。

まず1.5節「直方市の文化的特性」からですが、直方市の歴史について、記載されている内容は宿場町・城下町で江戸以前まで遡っています。

私は直方市の地名の由来についても触れたいと考えていますが、それ以外に加えるべき点や江戸よりも遠い昔の歴史はありますか。

<p>(委員)</p>	<p>直方市街地周辺はせいぜい城下町由来であり、植木地区についてはより古い歴史を持つため、平安時代まで遡る可能性があります。直方市街地に関しては、現状の城下町由来という記述で差し支えないと考えられます。</p>
<p>(委員)</p>	<p>植木は平安末期からですね。私も聞いたことがあります。石柱梵字曼荼羅や、空也上人のものもあり、これらは県の指定文化財になっています。ですので、今からおよそ950年前には、これだけの仏教文化が存在していたこととなります。950年前にこれだけの仏教文化が、どうして直方市植木地区に入ってきたのか、そして長谷観音も同様ですが、あのようなものが全国的に先進的な仏教文化として栄えていたことは事実です。私たちも非常に誇りに思っています。ただ、現在の記述では「直方市は江戸時代から」となっていますので、確認してください。仏教文化が全国的に先進的な地域であったことを、少し取り上げてもらいたいと考えています。</p>
<p>(会長)</p>	<p>ありがとうございます。私も実は今思い出したのですが、小学校のとき、学年は正確には覚えていませんが、遠足で感田小学校から長谷の観音様まで歩いて行ったことがあります。普段は見せていただけないものを、子どもながらに見せていただいた記憶があります。家に帰ったら、父に「この観音様は由緒正しく、とても重要な文化財だ」と言われたことを覚えています。子どもながらに「これは貴重なものなんだ」と感じたことを覚えていますので、今お話しいただいたことは非常に重要なことだと思います。もしよろしければ、こういった体験も文章に書き加えていただくと良いかもしれません。</p>
<p>(委員)</p>	<p>やはり「直方市」というのは、ここだけではないはずです。植木地区や感田地区、上頓野地区など、いろいろな地域があります。ですので、もし可能であれば、各地域の歴史や文化、誇りとなる要素にも目を配り、取り入れられる部分は文章に反映すると良いと思います。地域の誇りは、地域プライドにもつながることだと考えます。</p>
<p>(委員)</p>	<p>植木地区については、私が初めて伺ったので確認したところ、福岡県の文化財のリストを見てみると、植木地区だけで2~3件登録されていました。空也上人に関するものもあります。地域の文化財を全体的に拾える形にすると、みんなが知ることから始められるのではないかと思います。</p>

<p>(会長)</p>	<p>社会教育係の文化財に詳しい方のご意見を伺い、可能であれば各地域の情報を文章に入れていただくと良いと思います。</p> <p>文章は長くなりすぎず、簡潔にまとめると読みやすいかと思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>高取焼の体験などもありますが、その高取焼の起こりが、観光以前の直方市の町の歴史の中に入っていないように思います。内ヶ磯の窯の跡など、川跡や山中に埋もれている場所も多く、特に観光地化されていません。こうした場所や歴史を踏まえ、高取焼がどのように始まり、続いてきたのかを記載した方がよいのではないかと思います。</p>
<p>(会長)</p>	<p>ありがとうございます。事務局でも少しご検討いただけますか。ほかに歴史に関して気づかれた点はありますか。</p>
<p>(委員)</p>	<p>高取焼の扱いについてですが、根本的には直方市という地域設定の中で考える必要があります。石炭資料館なども含め、明治以降の周辺合併を踏まえると、直方市は非常に広い地域です。直方市の城下町が形成される前には鷹取に城があり、小規模ながら城下町もあった時代があります。高取城周辺の歴史も含めることが必要です。</p>
<p>(会長)</p>	<p>小学校は、それぞれの地域に存在するため、その地域の歴史から学ぶことが重要です。それぞれの地域の歴史や文化財、自然遺産なども拾い上げることで、資料に目配りがされている印象を与えられますし、地域の方々にも抵抗感なく読んでもらえると思います。</p> <p>時間もありますので、歴史以外の部分でも意見交換が可能であればお願いいたします。</p> <p>ないようですので、次に、文化芸術と観光を掛け合わせている部分についても議論したいと思います。前回お休みだった方もいらっしゃいましたので、前回の話を踏まえつつ、何かご意見があればお願いいたします。</p>
<p>(委員)</p>	<p>観光ですね。市役所からも景観は非常に価値のあるものだと聞き、改めて見ても大変綺麗だと感じました。東京からわざわざ市役所の方が来ることもあるそうで、文化遺産としての価値や観光資源としても大きいとのことでした。ある種、文化的な景観や自然的な文化景観をどう活かすか、どう売りにできるかが課題だと思います。</p>

<p>(会長)</p>	<p>私も本日時間がありましたので歩いてきましたが、橋を渡りながら直方市の景観の美しさを改めて感じました。以前、石炭記念館上部にビアガーデンを作る話を市長に提案したこともあり、今後も景観を生かす施策を検討したいと思っています。</p>
<p>(委員)</p>	<p>多賀公園についてですが、私は何年も行ったことがなく、以前は子どもの遊び場でしたが現在の状態を教えてください。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>現在は公園として整備され、以前のように動物はいませんが、草刈りなどもされており、普通に利用できる状況です。花見の時期は人が集まりますが、その他の時期はそれほど多くありません。高校生が遊んでいる目撃情報はあります。夜は安全面の懸念もあり、女性が昼間でも少し怖いと感じることがあるそうです。</p> <p>公園の土地は市の管理下にあります。多賀神社手前の部分が市管理です。以前は高い木が多く、福智山の景観が見えにくかったですが、現在は一部伐採されて見えるようになっています。木の伐採は数年前に行われましたが、まだ改善の余地があります。</p>
<p>(委員)</p>	<p>市の方で安全面や整備状況を検討し、改善できる部分があれば市議会などで対応を検討していただきたいです。元々の多賀公園は市民が自由に親しめる場所でした。現在の整備方法次第では、再び市民が気軽に訪れる機会を増やせると思います。</p>
<p>(会長)</p>	<p>私も一点だけ発言させていただきます。以前から石炭記念館についてお話ししている際に、回遊性をどう作るかということを考えておりました。駅から商店街、美術館、石炭記念館などを回るルートの上に公園などを整備することも一案ですが、もちろんお金がかかるため、すぐには実現が難しいかもしれません。それでも、中心市街地の活性化において回遊性は重要な課題だと考えており、もし可能であればご検討いただければと思います。</p> <p>また、前回の話題にもありましたが、この範囲での移動は歩きだけでは少し厳しいと思います。バスをもう少し充実させるか、平地が多く川沿いも楽しめることを考えると、自転車を誰でも使えるように整備できると良いと感じています。</p> <p>ただ、石炭記念館から向こう側は少し傾斜があるため、電動アシスト付きでないとは厳しいかもしれません。一方で平地のこちら側については、確</p>

<p>(事務局)</p>	<p>かに歩きやすいと思います。</p> <p>現状では、市で自転車を借りて竜王峽に行くようなレンタルサイクルのようなものはあるのでしょうか。</p> <p>以前は自転車屋さんがレンタルサイクルを提供していたのですが、現在は市内でレンタルサイクルは実施されていません。ただ、観光協会でレンタルサイクルの導入を検討する話があるようです。</p>
<p>(会長)</p>	<p>なるほど。直方市内完結型のレンタルサイクルと、遠賀川流域サイクリングロードを使う場合とがありますよね。そうすると往復利用か乗り捨て利用かも考えなければなりません。直方市だけでやるか、広域連携にするか、棲み分けや役割分担も視野に入れる必要があります。レンタルサイクルがあれば、今日のような天気の日にも「行ってみよう」と思う方が出てくるでしょう。坂道も多いので、利用者負担を考える必要があります。以前、自転車ブームもありましたが、一自治体だけで実施するのは限界がある、という話も前回ありました。</p> <p>では、もう一つ、前回の第3回審議会が出た「計画に十分反映されていないのではないか」というご意見について、委員の皆様から追加で盛り込んでほしいことがあれば、ぜひお願いします。時間も30分ほど経過していますので、最後に確認させていただきます。</p>
<p>(委員)</p>	<p>以前は「いこいの村」という施設があり、親戚の法事や夏の集まりなどで利用されていたので、遠方から来られる方の宿泊場所としても活用できていました。しかし、その施設がなくなったため、直方市内で宿泊できる場所が少なくなり、何か対策が必要ではないかと考えています。特に、公的な運営の宿泊施設があれば安心して利用できるのではないかと思います。また、「いこいの村」には日帰り入浴施設もあり、キャンプ利用者なども市外に出ずに入浴できていました。現在は市内で手軽に利用できる立ち寄り湯のような施設がほとんどないため、キャンプや宿泊利用の利便性が下がっている状況です。やはり入浴施設を備えた市の宿泊施設があると、キャンプ利用者も使いやすくなるのではないかと思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>「いこいの村」はどのような運営形態だったのでしょうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>直近では指定管理者に運営を委託していました。しかし、コロナ禍で宿泊客が激減し、人手に余裕ができたこともあって閉鎖されました。また、</p>

	<p>建物自体が老朽化しており、入浴施設を含む古い建物は旧耐震基準（昭和56年以前）で建てられていたため、現状のまま使用を継続することは難しい状況です。よって閉鎖が決定され、現在も建物は残っていますが運営はしていません。</p>
<p>(委員)</p>	<p>建物自体は残っているのですね。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>はい、残っています。ただし、耐震基準の関係で新耐震への改修か建て替えが必要となるため、現状のままでは使用できません。公費で宿泊施設を建設することはハードルが高い状況です。そのため、民間事業者に運営を委ねる形で対応できるかどうかが課題になっていると思います。</p> <p>民間に譲渡する場合も、耐震改修か建物の解体を前提に販売することになると思います。市としては更地にするよりも現状のまま売却する形が現実的だと考えています。土地は広大で、建物やテニスコート、グラウンド、山林なども含まれており、簡単に進められる状況ではありません。</p>
<p>(会長)</p>	<p>なるほど、内容はよく理解できました。時間も30分を過ぎましたが、何か追加でご意見はございますか。施設活用や宿泊施設の課題については、今後も議論の中で検討していく必要があると思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>直方市の市会議員の中で、植木に新幹線駅を作ろうという議論を進めている方がいらっしゃいます。先ほど市長が発言された件はニュースでも見ましたが、その新幹線駅設置に関して調査は入っているのでしょうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>調査自体は以前に一度行われていますが、随分前になるため、改めて調査が行われるタイミングはこれからになるかと思います。現状では、調査結果も踏まえて「期成会」を作り、直方市だけではなく近隣の古賀市や宮若市、鞍手町なども含めて新幹線駅の設置を進める方向で準備を進めています。具体的な調査は今後の段階になると思われます。</p>
<p>(委員)</p>	<p>個人的には、新幹線駅の設置よりも、まず「いこいの村を何とかしてほしい」と要望していただく方が、直方市としてはより変化が生まれるのではないかと思います。新幹線駅よりも市民のための施設整備が先ではないかと感じます。</p>
<p>(委員)</p>	<p>確かにその通りですね。新幹線駅の整備よりもいこいの村の復活や利用</p>

	<p>改善の方が、市民にとって直接的な利便性や地域活性化に寄与すると思います。</p>
(会長)	<p>筑豊電鉄についても、直方駅と鉄道の接続が現状で直結していません。将来的に直結する構想はあるようですが、実施時期は未定ですか。</p>
(事務局)	<p>はい、直結の構想自体はあり、調査も進めています。報告書では、接続すれば利用者が増えるとの結果が出ています。しかし、整備にかかる事業費は試算で40億～50億円程度で、筑豊直方駅からJR直方駅まで民家も多く存在するため、実現は容易ではありません。</p>
(会長)	<p>筑豊電鉄自体も、そもそも廃止したいと考えている区間があると聞きました。維持費がかかるとのこと、現状の延伸・直結も難しいのではないのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>はい、諸条件の関係で進行は容易ではなく、慎重に見守る必要があります。</p>
(会長)	<p>承知しました。それでは、次の議題に移りたいと思います。学校教育課の担当者の方も来られていますので、今日のメインテーマの一つである「文化芸術と教育の掛け合わせ」について、ご説明いただき、その後に意見交換を行いたいと思います。</p> <p>本日は、教育委員会学校教育課の中島様にお越しいただいております。お忙しい中、お時間をいただき、ご足労いただきまして誠にありがとうございます。文化芸術と教育の連携については、さまざまな取り組みがなされていると承知しておりますが、本日はその概要についてご紹介いただくとともに、その後で意見交換を行いたいと考えております。それでは、中島様から現在の取り組みや学校教育課として感じておられる課題などについてご説明いただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。</p>
(学校教育課)	<p>紹介いただきましたが、学校教育課の中島と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>本日は、直方市内の小中学校における文化・芸術に関する取り組みについてご紹介いたします。学校への聞き取りやアンケート調査の結果をもとに、どのような活動が行われ、どのような成果が得られているかをお伝え</p>

します。

まず、資料の1枚目をご覧ください。中学校での取り組みについてです。各学校で実施状況が異なるため、全ての学校で行われているわけではないことをご承知ください。

直方第一中学校の例では、体育祭や運動会において一中体操や一中炭坑節を長年続けており、旧産炭地の歴史を継承する取り組みとして、生徒が地域の歴史に触れる機会となっています。また、「中学生の未来に贈るコンサート」は県単位で福岡の振興協会が実施しており、3年に1度九州交響楽団による演奏会を行っています。青少年の芸術教育の一環として学校も応援しており、こうした活動が継続されています。

中学校の特別支援学級では、直方谷尾美術館と連携し、陶芸体験を実施した例もあります。陶芸体験は手先の器用さや創造力を育むことにもつながっています。

次に小学校の事例です。地域の伝統工芸である高取焼の陶芸体験や、陶芸体験後の茶道体験を行う学校もあります。生徒は自作の器を使ってお茶会を実施し、地域の方に参加していただくことで、お茶の心や日本の伝統に触れる機会となっています。

また、三年生全員を対象に、石炭記念館への見学を行っています。直方の産業文化の歴史を学ぶ社会科の学習として、展示の解説や石炭燃焼の体験など、日常では触れる機会の少ない文化体験が提供されています。

外部鑑賞機会としては、コミュニティや県の事業で音楽や演劇の鑑賞機会を提供しており、大規模なコンサートや学校訪問型のクラシック演奏会なども実施されています。

地域の伝統太鼓については、中泉小や西小などで地元の方に指導していただき、発表会を通じて伝統文化を継承する取り組みも行われています。また、身体表現ワークショップや花のアレンジメントなど、体験型授業も実施され、教育的効果が高いと考えられます。さらに、小学校や地域の文化祭に参加することで、児童が地域の文化に親しむ機会が増えています。

課題・手応えについては、こうした体験は非常に貴重で、実物に触れることや、太鼓の演奏など直接体験することが学習効果に寄与しています。また、郷土を大切に作る心の醸成にもつながっています。一方で、金銭面の課題や学校側の時間的制約、教員の準備時間の不足、さらに世代交代に伴う知識や教材の継承が課題として挙げられています。

教育分野から見た文化芸術の可能性としては、教育分野は地域の方と連携して学習成果を地域に発表する意義があり、日常の授業では体験しづらい活動を通して、子供たちの学習機会を広げることが可能です。また、学

<p>(会長)</p>	<p>校だけでなく地域の文化団体や専門家と連携することで、より豊かな体験の提供が期待されます。</p> <p>教育分野からの素直な意見・要望としては、予算面の制約がある中で、学校が活動しやすくなるよう、コミュニティ施設の優先利用や、データベース化された文化人材・団体情報へのアクセスが整備されることが望ましいと考えています。これにより、学校や生徒が地域の文化資源をより活用しやすくなります。</p> <p>ありがとうございます。資料の追加の紙についても、取り扱いを教えてくださいいただけますか？</p>
<p>(事務局)</p>	<p>追加資料については、私の方から説明させていただきます。</p> <p>子どもの才能の芽を育む事業では、市内中学生吹奏楽支援事業や、声楽家による歌唱指導事業などを行っております。これらは、児童生徒の芸術的才能や表現力を伸ばすことを目的とした事業です。</p> <p>市民文化祭では、市民や児童生徒の作品を制作・展示したり、演奏や発表を行ったりする場を提供しています。参加者は自らの作品や演奏を通して文化芸術に触れ、体験を学びとして楽しんでいただくことができます。</p> <p>また、先ほどの中泉小や西小の太鼓演奏などの体験型の活動も文化祭に取り入れることができれば、より多くの参加者に文化芸術の魅力を伝えることが可能であるという課題意識も社会教育係内で共有されました。</p> <p>直方谷尾美術館の子どもスタッフでは、小学校3年生から中学校3年生を対象に、子どもスタッフとして展覧会などの運営に関わる取り組みがあります。児童生徒が美術館での活動を通して、主体的に文化芸術に触れる機会を提供しています。</p> <p>直方バーチャルミュージアム社会教育課が運営するオンライン展示です。小学生などの子どもたちは自宅や学校から文化資源や作品に触れ、学ぶことができます。学校での活用を通じて、より多くの児童生徒に文化芸術体験の機会を提供できると考えられています。</p> <p>以上になります。</p>
<p>(会長)</p>	<p>はい、ありがとうございました。それでは、これから意見交換のお時間として、50分ほど確保できればと思っております。今ご説明いただきました取り組みを踏まえつつ、教育分野における文化資源を、どのようにさらに活用していくことができるか、また文化芸術と教育の連携によってどのような新たな取り組みが生まれるか、あるいはこの事業の連携に向けて</p>

	<p>どのような点をすり合わせていくべきか、いろいろな観点があるかと思えます。皆さまには、どうぞ忌憚のないご意見をいただければと思います。では、お願いいたします。</p> <p>(委員) いろいろ思うところはあるのですが、まず文化体験についてですが、なるべく子どもたちの時期に、多くの種類のものを味わってもらい、「こんな世界があるんだ」と知ってもらうことは非常に大事だと思います。できるだけ多くのことを体験できる環境を整えることは絶対に必要だと思います。ただ、限られた予算の中でどう実現するかという点では、考えることはいろいろあります。</p> <p>まず、市としてできることとしては、広報の整備が重要です。どのような取り組みがされているのかを市民に見えるようにし、知り、アクセスできる状態にすることが必要です。そして「自分もやってみたい」と思える情報を提供することが大切です。せっかく様々な取り組みがあるのであれば、市の情報、特にホームページなどに全て掲載し、何をやっているか、どんなことが起きているかを「見える化」することが望ましいと思います。</p> <p>さらに、小学校以上の子どもに限らず、未就学児についても視野に入れる必要があります。保育所や幼稚園に通っていない子どもたちも含め、どのように文化に触れる機会を提供できるかを考えることが必要です。</p> <p>また、学校全体で行うのか、限られた子どもに絞るのか、あるいは子どもたちの興味に応じて実施するのも、検討が必要な点です。体験は実際に出会わないとできませんので、興味の有無に関わらず全員に体験させる方法もありますし、すでに興味を持っている子どもたちが、より専門的な体験に近づけるようにする方法も考えられます。</p> <p>後者の場合は、クラブ活動などで興味を持つ子どもを連れて行く形がありますが、自動車事故などの安全面を考えると、顧問や保護者が付き添う必要があります。親の理解や興味が伴わないと子どもが十分に体験できないという課題も生じます。</p> <p>一方で、全員に体験させる場合は、学校に講師を呼んで、自校で体験できる環境を整えることも有効です。いずれにしても、あらゆるレベルで可能な限りの投資をして、体験の機会を提供することが重要だと思います。</p> <p>(会長) ありがとうございます。それにつきまして、中島さん、あるいは事務局から何かご意見はございますか。</p> <p>(事務局) はい、広報につきましては、以前からさまざまところからご指摘をい</p>
--	---

	<p>たदैております。昨年度からですが、各イベントについては、できる限りプレスリリースを含めて、ネット上に情報が出るように努めております。ホームページはもちろん、公式の SNS、それからプレスリリースも発信するようにしています。これは直営のイベントに加え、例えば直方谷尾美術館でのものや、他の指定管理文化施設のイベントについても、可能な限り情報を出すようにしておりますので、少しずつ目に留めていただくようになってきているかと思ひます。</p> <p>また、小学生向けの体験活動に関してですが、学校教育課で学校同士の活動として行っていたひているものと別に、社会教育係の青少年育成市民会議という組織でも、小学生から中学生向けの体験活動を年間通じて行っております。これについては、どのような活動を行っているか、後ほど提供させていただこうと思ひます。募集をかけ、希望する子供たちが参加できるような内容になっております。年間を通して、美術やアート、高取焼体験のようなさまざまな分野の活動を行っており、子供たちが幅広く体験できるようにしています。</p> <p>また、文化活動と合わせて、小さい時期からの体験機会も重視しており、こちらも同様に推進していく予定です。</p>
(会長)	ありがとうございます。それでは、何かご質問やご意見がございますか。
(委員)	私の理解が足りないかもしれませんが、3枚目の資料についてお聞きしたいです。中学校のところで「三校目の要望」とか「二校目の要望」と書かれていますけれども、具体的にはどういう意味でしょうか？
(学校教育課)	<p>はい、この3項目、4項目、2項目というのは、元々別のものを取りまとめた時に、中学校ごとに、一中、二中、三中、植木中で意見を整理していたものです。</p> <p>今回、二項目、三項目、四項目と書かれているのは、当初取りまとめた意見を資料に落とす際に、一部私が反映漏れしてしまったものです。</p> <p>具体的に申し上げますと、三項目というのは直方三中・二中の意見をまとめたもので、四項目は植木中の意見を反映したものです。つまり、学校ごとに整理された意見ということです。</p>
(委員)	なるほど、わかりました。ありがとうございます。
(事務局)	追加で申し上げますと、未就学児の体験活動については、我々のところ

	<p>では直接は行っておりませんが、こども育成課に「幼児教育推進係」があり、そちらがメインで実施しています。その活動は、各保育園や子供のコミュニティで行われており、昨年の場合ですと、九州の方から歌のお姉さんが来て演奏しながら歌を披露し、子供たちが一緒に見て体験するという活動を実施しています。</p>
<p>(委員)</p>	<p>なるほど、ありがとうございます。</p>
<p>(委員)</p>	<p>職業体験学習というものもあります。小学校6年生や中学校の時に、私たちの美術館の場合ですと、三中などが割り当てられています。生徒さんが文化施設に関心がある場合、2日から3日程度の体験学習を行うという取り組みです。</p>
<p>(委員)</p>	<p>それは、いわゆるインターンのような感じでしょうか。</p>
<p>(委員)</p>	<p>はい、そんな感じですが。小さい子供向けの場合だと、職業体験と言われてすぐに思い浮かぶのはキッズエリアですが、中学生向けの職業体験はインターンのような形になります。今年も中学校から要望があり、実施予定です。</p>
<p>(委員)</p>	<p>具体的にはどのような内容ですか？</p>
<p>(委員)</p>	<p>学芸員の見習いのような形です。正確にいうと「学芸員の見習いの見習い」といった感じで、学芸員の業務の一部を体験してもらいます。また、歳時館やユメニティのおがた、市立図書館、石炭記念館などにも学生を受け入れて職業体験を行っています。</p> <p>さらに、小中学校では「夢事業」というキャリア教育の一環も行っています。美術館や文化施設に限らず、地域で働く様々な職業の大人の方を招き、話を聞いたり、実際に仕事の内容を知ったりする機会を作っています。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>私も自治体の職員として職業体験事業に参加したことがあります。参加した際には、歯医者さんやお医者さん、自衛隊、警察官、消防など、さまざまな職業の方々が来られて、子供たちにどのような仕事をしているのかを説明する機会がありました。その中で、やはり人気のある職業や制服の職業には子供たちが集まる傾向があり、私の担当するところは少し空いってしまって申し訳なかったのですが、それでも全体としては非常に盛り上が</p>

	<p>り、子供たちに「将来なりたい職業」が具体的にイメージできるような取り組みになっていたと思います。このような取り組みは、長年にわたり継続されてきているものです。</p>
<p>(委員)</p>	<p>そこで少し伺いたいのですが、最近の教育制度についてはあまり詳しくないのですが、例えば「総合的な学習の時間」など、学校教育の制度も変わってきていると思います。その点に関して、こうした職業体験事業はどのように対応しているのでしょうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>はい、学校の教育課程の中では、「総合的な学習の時間」というものがあります。これは、キャリア教育や将来の進路について考える時間でもあります。中学生の場合は特に進路選択に関わる内容が多く含まれていますが、道徳や数学などの教科で学ぶこととも関連させながら、幅広く学ぶことができる時間です。</p> <p>また、直方市では、NPO の協力により「キャリア教育研究会」が作られており、さまざまな職業人の人材バンクが整備されています。もともとは北九州で始まった活動ですが、直方市でも同様の仕組みを活用して、学校が相談すれば職業人を派遣してもらうことが可能です。加えて、学校が保護者にも呼びかけることで、幅広い職業人来てもらい、子供たちにお話をしてもらうことができます。このような活動は、子供たちにとって非常に刺激的な学びの機会となっています。</p>
<p>(委員)</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>一応、今からお配りする資料についてご説明します。先ほどお話ししました「市民会議」において実施している事業についてです。過去数年間に実施した事業の内容も含まれています。また、今年度の事業計画も作成しており、まだ総会に諮っていない資料ではありますが、参考までに今年度の予定もお配りさせていただきます。</p> <p>今お手元にお配りしております資料は、青少年市民会議で実施している体験活動についてです。対象は基本的に小学生から中学生となっています。ただ、体験内容によっては低学年には少し難しいものもありますので、中学生以上を対象とするものもあります。そのため年齢制限を設けている場合もありますが、原則として小中学生が対象になります。</p> <p>年度ごとにはほぼ同じ形で実施しておりまして、令和7年度の例を説明しますと、6月から体験活動を開始しています。ニュースポーツ体験会で</p>

は、ボッチャとモルックの2種類の競技を体験してもらっています。ボッチャはパラリンピックでも日本選手が活躍していることもあり、知名度が上がってきている競技です。モルックは木を投げて倒すゲームで、ボーリングの転がさない版のような形になります。

またアート系イベントとしては、直方谷尾美術館の館長さんにご協力いただき、苔テラリウムを作る体験を行いました。瓶の中に苔を植え付けて鑑賞するという内容で、非常に人気のあるイベントでした。

さらに料理教室では、こち様の協力を得て、低学年でも参加できるように包丁を使わないクッキー作りの体験を行っています。こちらは親子で参加する形式で、こちらも大変人気のある事業となっています。

サイエンスショーでは、ロケットを飛ばすイベントを行いました。大学の先生方に協力いただき、本物の火薬を使用して約100メートル飛ぶロケットを河川敷で発射しました。子どもたちは自分たちでロケットを作り、全員が体験できる内容となり、大変人気のあるイベントで、参加者は抽選で決定されました。また、同時に中央公民館では宇宙に関する体験イベントも実施し、科学者アカデミーによる衛星模型の観察や真空実験など、館内全館を使ったプログラムで延べ300人以上の子どもたちが参加しました。

十月にはカヌー川下り体験を実施し、水辺館前からカヌーに乗り、下流まで約五〜七キロメートルの距離を下る体験を行いました。指導者が必要なため参加人数は十数人に制限され、抽選で参加者を決定しました。

十一月には消防署職場体験を行い、消防署の協力を得て、制服着用や消火活動の体験などを子どもたちに提供しました。このイベントも大変人気があります。

親子陶芸教室では、高取焼の陶芸家の方々に指導いただき、親子で陶芸体験を行いました。毎年100名以上の申し込みがあり、作成した作品は後日受け取ることができます。

紙ヒコーキ大会は県と共同で実施しており、全国大会への上位進出を目指す予選会として行われました。これらのイベントは年間を通して実施され、子どもたちの体験の機会を広げる取り組みとなっています。

今年度は新たな取り組みとして、六月に親子防災学習を水辺館で実施する予定です。災害発生時の対応を親子で学ぶ内容で、今年初めて行う試みです。七月にはeスポーツ協会と共催で中央公民館にてNintendo Switch「スマッシュブラザーズ」の大会を予定しており、八月にはイオンモールと協力してバックヤードツアーを行います。映画館や警備モニター、防災センター、館内放送設備、ゲームセンターの裏側などを見学する体験イベ

	<p>ントです。十一月には親子ドッジボール体験を実施、二月には消防体験に加え、警察・消防・自衛隊など子どもたちが憧れる職業を一度に体験できるイベントを予定しています。これらの事業を通じて、市民会議では子どもたちの体験の場を増やす取り組みを進めています。</p> <p>長くなりましたが、以上になります。</p>
(会長)	<p>それでは、もしご意見やご質問、あるいは先ほどのご説明でさらに明確にしてほしい点がありましたらお願いします。</p>
(委員)	<p>先ほど抽選が多いとお話がありましたが、抽選を行わずに回数を増やすことは難しいでしょうか。</p>
(事務局)	<p>現状では、市民会議自体の予算が限られているため、回数を大幅に増やすことは難しい状況です。費用のかからないイベントを増やすことで対応しており、例えばeスポーツ大会やイオンバックヤードツアーなどは企業の協力によりほとんど費用をかけずに実施可能です。今後は予算の増加も検討しており、来年度以降はより充実した事業展開を目指しています。</p>
(委員)	<p>いつ頃から青少年育成市民会議という組織が存在しているのですか。</p>
(事務局)	<p>少し補足させていただきますと、私の世代では記憶が曖昧ですが、小学校が段階的に週休二日制になった経緯があります。週休二日制になると土曜日に子どもたちが時間を持て余すことがあり、そのため体験活動を提供する必要が生じました。最初にこうした取り組みを始めたのは「アンビシャス運動」という団体で、その後、市民会議のような組織的な仕組みが整えられたと聞いています。現在では、社会教育係内に会兼任の職員の地域活動指導員もおり、一体となって活動しています。</p>
(委員)	<p>話は変わるのですが、小学校からの要望として、特定の有名画家や作家の特別展を増やしてほしいという声があるとのことでしたが、実際に直方谷尾美術館でも様々な作家さん呼んで企画展を実施しています。しかし、それでもこうした要望が出る背景として、子どもたちが家庭教育や地域外の美術展へのアクセスが難しいことも関係していると考えられます。</p>
(委員)	<p>私は全てを学校で抱え込む形ではなく、各家庭での学びや市外での展覧会への参加も重要であるという考えです。直方市内でも直方谷尾美術館を</p>

<p>(委員)</p>	<p>はじめ、企画展を見る機会は提供されており、有名画家や作家の作品も鑑賞可能ですが、要望としては典型的な画家（ゴッホ、フェルメール）が中心になりやすいです。</p> <p>福岡県の文化振興協議会にも関わっているが、そこでの議論も、どうしても福岡市周辺に住んでいる人たちを前提とした話になりがちである。しかし、福岡県は広域であり、遠方に住む人たちがどのように文化芸術にアクセスできるかについても考える必要があると私は考えています。</p> <p>例えば、交通費の補助や移動に対する支援など、遠方から参加する際には、時間や費用、労力といった課題が生じます。市としても県と相談しながら、どのような支援が可能か、また家庭が子どもを文化芸術の場へ連れて行きやすくするために、どのような環境整備が必要かを考えていく必要があると思います。</p> <p>文化芸術の分野では、どうしても文化資本の問題が関係してきます。都市部の方が文化芸術に触れる機会が多く、アクセスしやすい環境にある一方で、地域によっては距離や費用の面で不利になる場合があります。また、文化芸術に触れるためには、一定の経済的余裕や家庭の協力が必要となる面もあり、誰もが平等に機会を得られるわけではないという課題があります。</p> <p>福岡市などの都市部から距離が離れるほど、実際に文化芸術の場へ足を運ぶことは難しくなる。「行ってみよう」と思ったときに、交通手段や費用面などの条件がどれだけ整っているかによって、実際にアクセスできるかどうかが大きく変わる。そのため、文化芸術への参加機会を広げるためには、地域差や家庭環境の違いも踏まえた支援の在り方を検討する必要があります。</p>
<p>(会長)</p>	<p>確かに、私自身にとっても、年に一、二回福岡市へ行くことは特別な機会でした。例えば、福岡市に行って大きな書店に立ち寄ることも、自分にとっては非常に大きなイベントであったと感じています。そのため、文化芸術へのアクセスに関するご意見については、よく理解できます。</p> <p>一方で、直方市には直方市ならではの素晴らしい文化資源があります。そのため、外部の有名な文化資源に目を向けるだけではなく、まずは地域にある資源をしっかりと学び、学びの素材として活用していくことも重要です。ただし、大きな書店や大規模な美術館など、福岡市に行かなければ得られない文化的な体験があることも事実です。そのような機会をどのように確保していくかについては、今後の検討課題であると考えます。</p>

<p>(委員)</p>	<p>「有名な画家や作家の特別展を増やしてほしい」という要望については、予算や人員、施設の状況などが整えば実施したいという思いはあります。しかし、実際には限られた予算や施設条件の中で展示計画を立てる必要があります。指定管理者への委託や管理料の範囲の中で、なぜ直方市でその展示を行う必要があるのかを検討しながら、展示内容を考えている状況です。</p> <p>そのため、単に「有名な画家や作家の展示」と言っても、それを直方市で実施する意義や必要性を整理する必要があります。また、そもそも皆さんが考える「有名な画家・作家」が具体的にどのような人物を指しているのかについても、認識に差があると感じています。その点も含めて、今後整理していく必要があると考えます。</p>
<p>(会長)</p>	<p>この意見に対しては、私自身も同様に感じる部分があります。</p> <p>本来、ミュージアムは特別展が中心であるべきではなく、常設展こそが重要であると考えます。常設展には、そのミュージアムが何を大切にし、何を伝えようとしているのかが最も表れるはずです。一方で、日本における特別展は、新聞社やテレビ局などが主催する大規模な企画展、いわゆるブロックバスター展のような、お祭りのような性格を持つものが多いと感じています。</p> <p>そのため、「有名な画家や作家の特別展を実施してほしい」という意見については、そのお気持ちは理解できます。しかし、現実的に実施が可能かという問題に加え、文化芸術に向き合う姿勢としてそれでよいのかという点についても、本来は考える必要があると思います。本日は、個人的にはやや批判的な意見がいくつか出ていたため、私も発言しましたが、この点は非常に難しい課題であると感じています。</p> <p>華やかな展示を求める気持ちは理解できますが、文化施設として何を大切にしていけるべきかについては、慎重に考える必要があると思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>その点で言えば、直方谷尾美術館で行っている取り組みは、地元の作家を掘り起こし、きちんと展示するという役割を果たしていると思います。地元の作家を掘り起こすことは非常に重要であり、そのような取り組みは大型の美術館でも行われています。</p> <p>また、私たちの世代では、子どもの頃に学校から映画を見に行く機会がありました。高校生の頃には、ツタンカーメン展のような大規模な展覧会があると、学校がバスを手配して連れて行ってくれたこともありました。</p>

<p>(会長)</p>	<p>確かに、ツタンカーメン展は以前、福岡でも開催されていたと思います。私の母も、その図録を持っていた記憶があります。</p>
<p>(委員)</p>	<p>昔は、学校が子どもたちを展覧会などに連れて行くことに大きな目的があったのではないかと思います。子どもたちに文化芸術に触れる機会を与えるという意味があったのだと思います。</p> <p>現在は、保護者が車を運転できる家庭も多く、親が連れて行こうと思えば行ける時代になってきていると思います。一方で、そうした環境が整っていない家庭もあるため、そのような場合には、学校が一定程度拾い上げ、みんなで文化芸術に触れる機会をつくることも考えられると思います。</p> <p>ただし、基本的には、家庭教育の中で文化に触れる機会を育てていくことも大切であると考えます。</p>
<p>(会長)</p>	<p>今のご発言や、先ほど委員がおっしゃったことにも関係しますが、文化芸術に触れる機会については、家庭の影響が大きい面があります。</p> <p>例えば、家庭の中で文化芸術への関心が高くない場合、子どもが美術館や展覧会などに連れて行ってもらう機会が少なくなる可能性があります。その結果、文化体験の格差につながることも考えられます。</p> <p>そのため、家庭だけに任せるのではなく、公教育の場で一定程度すくい上げる必要があるのではないかという見方もあると思います。最終的には、家庭教育と学校教育、地域や行政がどのように役割分担していくかという話になるため、唯一の正解があるものではありませんが、今後検討していく必要がある課題だと思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>それに関連して、以前にもお話ししたかもしれませんが、韓国・ソウルの事例について紹介します。ソウルでは、大きな美術館には「子ども美術館」のようなスペースが併設されていることが多くあります。私も興味があり実際に見に行ったことがあります。そこでは単に美術作品を展示するだけではなく、子どもたちが自分で絵を描いたり、創作活動を行ったりするスペースが設けられていました。</p> <p>また、そのような施設は多くの大規模美術館に整備されており、予約も埋まっていることが多く、非常に利用が多い印象を受けました。なぜそのような仕組みが成り立っているのか韓国の友人に聞いたところ、小学校などの学校活動の中で、美術館での活動が一定程度認められているとのことでした。つまり、学校を休んでいる扱いではなく、学校に行く代わりに授</p>

<p>(会長)</p>	<p>業に参加したものとして認められる仕組みがあると聞きました。</p> <p>その場合、実際に美術館へ連れて行くのは家庭ですが、学校教育の仕組みの中で家庭も動かしながら、子どもたちが文化芸術に触れる機会を確保している点が非常に良いと感じました。</p> <p>例えば、美術館で伝統芸能に関する展示やプログラムがある場合、それを見るだけではなく、子ども自身が何かを作ってみる体験ができます。その場にはモデルとなるものや指導者も用意されており、美術館側にも受け入れの仕組みが整っています。また、子どもが「行ってみたい」と思うことが、保護者と一緒に行動するきっかけにもなります。結果として、家庭のモチベーションにもつながり、子どもたちにとって多様な文化体験の機会になると感じました。</p> <p>このような仕組みは非常に良いと感じる一方で、日本で同様の取り組みを行うには、どのような仕組みづくりが必要なのかについては、今後考えていく必要があると思います。</p> <p>ありがとうございます。例えば、現在、福岡では「ミュージアムウィーク」が実施されています。福岡市はミュージアムが多く、こうした取り組みを頑張っていると感じています。また、東京の上野などもミュージアムが多い地域です。</p> <p>実は、昨日か今日が「国際博物館の日」にあたります。これは、ICOM、国際博物館会議が定めた日です。その前後の期間に合わせて、福岡では5月16日から24日までミュージアムウィークが行われており、例えば福岡市博物館では、常設展が無料で観覧できる期間となっています。</p> <p>このような機会に、直方の子どもたちが福岡市内の大きなミュージアムへ行ける環境をどのようにつくることのできるのか、という点は考える必要があると思います。当然、そこには費用の問題も出てきます。例えば、交通費などの補助を出すのか、それとも家庭で対応すべきものとするのかという点は、非常に難しい問題です。</p> <p>一方で、大きなミュージアムに行かなければ得られない体験があることも事実です。そのような体験をしたい子どもがいるのであれば、まずは情報提供から始める必要があると思います。そもそも、ミュージアムウィークのような取り組みを知らない人も多いのではないかと思います。その中で、どのように子どもたちや家庭に知ってもらい、実際に行ってもらうかを考える必要があります。</p> <p>また、その機会を土日など家庭に委ねるのか、平日の学校教育の中で学校が関わるのか、あるいは行きたい人が自主的に行けるようにするのかと</p>
-------------	---

いう選択肢もあります。先ほど韓国の事例で、公欠のような扱いについての話もありましたが、そのような仕組みを考えるのか、さらに運賃などの補助を行うのかなど、考えられる方法は複数あります。

いずれにしても、能動的にできることを追求していくこと、そして福岡市などにある大きな文化施設や展示にどのように目を向けてもらうかという点は、検討する余地があると感じました。

他に、皆さんから何かございますか。あと20分ほど、40分頃までお時間をいただければと思います。

私からも、いくつかお尋ねしてよろしいでしょうか。私自身の経験になりますが、以前、ここにまだ市民会館があった頃、学校で合唱コンクールを行い、1位と2位のクラスがここに来て歌った記憶があります。当時の直方第一中学校は非常に大きく、11クラスほどあったと思います。その中の上位のクラスが発表したのではないかと記憶しています。もしかすると、それが先ほどの文化祭であったのかもしれませんが、私自身もここで歌った記憶があります。

当時を振り返ると、学校や地域の中で、さまざまな文化的な活動をしていただいていたのだと感じます。一方で、こうした取り組みは学校現場の負担を増やすことにもつながるため、簡単に「やってください」と願うことは難しいとも思います。やっていただきたいという思いはありますが、それを学校に押し付ける形になるのは申し訳ないという気持ちもあります。

その上で、こうした文化的な学びと、普段の学校での学びをどのようにつなげていくのが重要だと考えています。自分自身の記憶を振り返っても、こうした行事はスポット的に行われることが多く、ある種のお祭りのような形で、事前知識があまりないまま参加することもあったように思います。参加してみたものの、それが日頃の学びとどのようにつながるのが十分に見えないこともあったのではないかと感じます。

その関係で、二点お尋ねしたいと思います。

一つ目は、美術館で何か展示や事業を行う際に、図書館と連携するような取り組みがあるのかという点です。例えば、美術館の企画展に関連する本を図書館に置いたり、関連コーナーを設けたりすることで、展示内容をより深く学べる機会をつくるのではないかと思います。直方市で文化活動や文化的な取り組みを行う際に、図書館とタイアップし、それに関連することをもう少し学んだり、関心を深めたりする機会をつくることは、非常に有効ではないかと感じています。すでに取り組みされているのであれば、その内容を伺いたいですし、まだ十分でないのであれば、今

(学校教育課)	<p>後そのような連携の方法もあるのではないかと思います。</p> <p>二つ目は、地域格差の問題とも関わりますが、現在は地方やいわゆる田舎にいても、インターネットを活用することができます。その中で、特に生成 AI の活用についても考えられるのではないかと思います。もちろん、生成 AI については使い方が重要であり、私は学生にも、自転車の乗り方と同じように、正しく使い方を身に付ける必要があると話しています。</p> <p>一方で、生成 AI がこれだけ普及してきている中で、うまく活用すれば、さまざまな学びにつなげることができるのではないかと感じています。地方にいながらでも、インターネットや生成 AI を通じて学びを広げていくことは可能な面があると思います。そのような観点から、文化体験や学習機会の広がりについて、何かお考えがあれば伺いたいです。</p> <p>少し抽象的な質問になってしまいますが、図書館との連携や、インターネット・生成 AI の活用も含めて、地域における文化芸術の学びをどのように広げていくかについて、ご意見をいただければと思います。</p> <p>ありがとうございます。直方谷尾美術館と図書館の連携については、双方とも直方市の文化的な施設として、学校の学習にも大変役立っていると感じています。実際に、学校からも多く見学をさせていただいています。</p> <p>一方で、実際に施設へ行くとなると、どうしても移動の面での課題があります。歩いて行ける学校については多く利用させていただいていますが、距離がある学校については、なかなか利用できていない状況があります。</p> <p>そのような中で、図書館については、毎年学校の図書室の中に図書館のコーナーを設けていただいています。定期的に来校して本を入れ替えていただいたり、専用の棚を作っていただいたりすることで、子どもたちがより多くの本に触れられるような取り組みを行っていただいています。</p> <p>また、年に数回ではありますが、一部の子どもたち、例えば高学年の子どもたちなどを対象に、図書館の方からお話をさせていただく機会もあります。本の持ち帰り方や、学校図書館をどのようにつくっていくと子どもたちがより利用しやすくなるかなどについて話していただき、学校と図書館の距離を近づけるような取り組みをしていただいていると感じています。</p> <p>直方谷尾美術館についても、見学に行った際には、単に展示を見るだけでなく、館長などからお話をさせていただいています。作品そのものの説明だけでなく、美術に親しむためのお話もさせていただいており、子どもたちにとって大変貴重な機会になっています。</p> <p>見学だけでは、子どもたちは知っている作品が少なく、特に地元の作品</p>
---------	--

についてはなかなか馴染みがない場合もあります。先ほどの「有名な作品」という話にもつながりますが、作品について話をさせていただくことで、「この作品にはこういうストーリーがある」「この作品はこのように作られている」といった理解につながります。そのように、作品と子どもたちをつなげる取り組みを、図書館や美術館ではさまざまに行っていると思います。

インターネットや生成 AI については、少し難しい面もあります。現在、小中学校では、コロナ禍以降に一人一台のタブレット端末が導入され、誰もがインターネットにつながる環境が授業の中で整っています。先生方も授業で積極的に活用しており、調べ学習は以前よりも相当便利になりました。

以前は、インターネットで調べようとしても、パソコン室にしかパソコンがない時代が長く続いていました。そのため、調べ学習を行うには特別な機会が必要で、週に一回程度しか使えないような状況もありました。しかし現在は、先生が「少し調べてみましょう」と言えば、子どもたちがすぐにタブレットを開いて調べられる環境になっています。その意味では、インターネットは非常に身近なものになっていると感じています。

さらに、ここ数年で生成 AI も登場してきています。ただし、生成 AI については、先生方もまだ慎重に扱っている部分があります。ChatGPT など多くのサービスでは、利用規約上、13 歳以上または一定年齢以上で保護者の許可が必要とされているものが多く、12 歳以下の子どもについては基本的に利用できない場合があります。そのため、小学生が直接利用することは難しい状況です。

一部には、小学生も使えるように企業が開発した、フィルタリングなどが整ったサービスもありますが、無料で利用できるものは限られています。そのため、現時点では、中学校で保護者の許可を得た上で活用している事例はあるようですが、小学校で本格的に導入されている状況ではありません。

ただし、先生が生成 AI を活用して授業の中で紹介することなどは今後考えられます。今後、生成 AI は教育の現場にも少しずつ入っていくのではないかと考えています。

(会長)

今のお話を伺って、直方谷尾美術館で企画展などが行われる際に、図書館で関連書籍を紹介するような取り組みがあってもよいのではないかと感じました。

今回、鋤田正義氏に関する展示が行われることもあり、私自身も写真に

関心がありますが、写真について考えてみると、実は写真に関する書籍は非常に多くあります。写真とは何か、写真の歴史、写真の魅力、写真表現のあり方など、写真をテーマにした本は数多くありますし、写真評論に関わる方も多くいらっしゃいます。

せっかく直方市を代表する写真家の方がいらっしゃるのであれば、その展示をきっかけとして、写真について考える機会を図書館でもつくることのできるのではないかと思います。例えば、図書館に写真に関する本のコーナーを設け、美術館の来館者に「図書館でも写真に関する本を紹介しています」と案内することで、展示を見た後に図書館にも足を運んでみようと思うきっかけになるのではないかと考えます。実際に手に取ってみると、写真に関する本の中には、意外と面白いものが多いと思います。

場合によっては、企画展に合わせて関連する蔵書を充実させていくという方法も考えられます。直方にこれだけの写真家がいらっしゃるのであれば、直方市の図書館として、写真に関する本を戦略的に収集し、充実させていくことも一つの方向性ではないかと思います。

図書館がすべての分野を総合的にそろえる必要はないと思います。幅広い資料については、県立図書館などの役割もあると思います。その一方で、直方市にゆかりのある文化資源と関連する分野については、市の図書館として特色を持って収集・発信していくことも考えられるのではないかと思います、発言させていただきました。

(事務局)

先日、IKKOさんのイベントを実施した際には、図書館でIKKOさんの関連書籍コーナーを作っていただきました。また、石炭記念館のイベントの際にも、図書館で関連書籍コーナーを設けたことがあります。

一方で、美術館の企画展と図書館を連携させる取り組みについては、これまで十分に行えていなかったことに、今のお話を伺って気づきました。

現在、石炭記念館の再開に向けた動きもありますので、それに合わせて関連書籍のコーナーを設けるなど、施設間で相互に連携できる取り組みを進めていくことも考えられます。また、先ほどの図書館との連携についても同様ですが、どの施設がどのように情報を発信するのか、どのような表現で来館者に伝えるのかといった点も含めて検討していく必要があると感じました。

今回のご意見を伺い、美術館・図書館・石炭記念館などの文化施設が、それぞれ単独で事業を行うだけでなく、関連するテーマを通じて相互に連携し、学びを深める機会をつくることの重要性に改めて気づくことができました。ありがとうございます。

<p>(会長)</p>	<p>少し雑談のようになりますが、写真評論家の飯沢耕太郎さんという方がいらっしゃいます。以前、横浜美術館だったかと思いますが、ある写真展が開催されていた際に、夜に参加費を払って参加する鑑賞会のようなものがありました。</p> <p>その場では、写真評論家の方が展示作品を見ながら、「この写真はこういう作品である」「この写真にはこういう見方がある」といった解説をしてくださり、その後、参加者で食事をするというセッションがありました。私自身も、写真に関する本を読んだり、そのような場に参加したりした経験があります。</p> <p>せっかく直方市にこれだけの写真家の方がいらっしゃるのであれば、写真について考えるための本を図書館でそろえ、関連コーナーを設けて貸し出すような取り組みができるのではないかと思います。そうすることで、谷尾美術館に行った後に、図書館にも立ち寄ってみようという流れが生まれ、まちなかでの滞在時間の延長にもつながるのではないかと考えます。</p> <p>また、それは観光資源としての活用にもつながる可能性がありますし、教育的な効果もあると思います。対象は小中学生や高校生に限らず、大人も含めてよいと思います。生涯教育という観点からも、幅広い世代が写真や文化芸術に触れるきっかけになるのではないかと思います。あくまで一つのアイデアですが、そのように感じました。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>(委員)</p>	<p>図書館や市の他の機関との連携という点では、今のお話は主に「見る」「読む」といったインプットの機会に関するものだったと思います。一方で、先ほど小島先生がおっしゃっていたように、子どもの頃にこの場所で発表した記憶が残っているということからも、自分自身が何かをするという経験は、非常に強い体験になると思います。</p> <p>そのため、子どもたちが自ら発表したり、制作したりするような機会を提供することも重要ではないかと思います。そうした機会があれば、保護者も見に来ることが考えられますし、結果として施設や地域の活性化にもつながるのではないかと思います。</p>
<p>(会長)</p>	<p>その時は、かなり恥ずかしかった記憶がありますが。</p>
<p>(委員)</p>	<p>それでも、今でも覚えていらっしゃいますよね。自分自身の経験を振り</p>

	<p>返っても、やはりそうした体験は記憶に残るものだと思います。</p>
(会長)	<p>確かに、恥ずかしかったことは覚えています。指揮者だったこともあり、その時の恥ずかしさは今でも記憶に残っています。</p>
(委員)	<p>そのように、自分が何かをした経験は、子どもたちにとっても印象に残るものになると思います。</p>
(会長)	<p>他に何かご意見はございますか。</p> <p>やはり、直方市として考えなければならないことは、福岡市の美術館やアクロス福岡、北九州市立美術館のような大規模な文化施設がある中で、直方市では何ができるのかという点だと思います。まずは、直方市にある資源を生かしながら、ここでできることを考えることが大切ではないかと思えます。</p> <p>ただし一方で、子どもの頃に都市部の大きな文化施設や華やかな文化的体験に憧れる気持ちがあったことも事実です。そのため、直方市でできることを考えることと同時に、福岡市や北九州市などにある大きな文化施設へのアクセスのルートをどのように開いていくかについても、並行して考える必要があるのではないかと感じました。都会に憧れる気持ちは、ある程度自然なものでもあると思います。</p> <p>他にお聞きになりたいことなどはございますか。</p>
(委員)	<p>演劇関係については、現在どのような状況でしょうか。以前、商店街の方でワークショップのようなものを子ども向けに実施されていたと思いますが、現在もそのような取り組みはありますでしょうか。</p>
(事務局)	<p>演劇についてですが、以前は劇団四季などが来て、小学生に演劇を鑑賞してもらい取り組みが行われていました。しかし、コロナ禍をきっかけになくなってしまい、それ以降、演劇に関する取り組みは正直あまり多くない状況だと思います。</p> <p>ただし、学校単位では、一部実施しているところもあります。例えば、各小学校が個別に観劇に行ったり、劇団を呼んだりするような取り組みです。私が以前、学校教育課にいた際にも、学校単位で演劇鑑賞を行っていた事例がありました。</p>
(委員)	<p>学校単位で実施しているということですか。</p>

<p>(事務局)</p>	<p>そうですね。学校単位で実施しています。各学校には、学校の特色に応じて一定程度自由に使える予算があります。ただし、行政のお金ですので、使途には制限があり、自由に使えるというわけではありません。</p> <p>その予算を活用して、以前、感田小学校では劇団を呼び、観劇を行ったことがあります。</p>
<p>(委員)</p>	<p>実演の場合、予算は大体どれくらい必要になるのでしょうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>かなり前のことになりますので、はっきりとは覚えていませんが、学校単位で使える予算はそれほど多くありません。年間で10万円から20数万円程度だったと思います。そのため、観劇などを実施すると、その予算をほぼ使い切ってしまうような状況になります。</p>
<p>(委員)</p>	<p>なるほど。そうですね。</p> <p>例えば、各学校が協力して予算を出し合い、複数の校区で共同実施する方法も考えられるのではないかと思います。全額を一つの学校で負担するのではなく、複数校で共同し、市民会館のような比較的座席数の多い施設に集まって鑑賞する形にすれば、効率的に実施できるのではないかと感じます。そのような取り組みは、あまり行われていないのでしょうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>その予算自体が、文化的な活動に限定されたものではありません。地域と連携した活動や体験活動など、比較的幅広く使える予算です。</p> <p>例えば、地域の方と一緒に花を植える活動や、米作り体験など、さまざまな体験活動に使われています。また、地域の特性に応じて、講師の方に謝礼を支払うような場合もあります。そのため、文化芸術活動に限らず、各学校が地域の実情に合わせて個別に活用していると聞いています。</p>
<p>(委員)</p>	<p>分かりました。ありがとうございます。</p> <p>文化体験の重要性を訴えて、国や県などから予算を確保していく方法はないのでしょうか。現在の状況では、10万円程度の予算では、実演や専門的な講師を呼ぶことは難しいと思います。場合によっては、桁が一つ違うくらい予算を改善しないと、思うような文化体験を提供することは難しいのではないかと感じます。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>現在の予算については、文化的な活動に特化したものというよりも、体</p>

<p>(会長)</p>	<p>験活動全般に活用されているものです。その中で、一部の学校が文化的な活動に活用しているという状況です。</p> <p>体験活動については、国や県の補助が入る場合もありますが、すべてを十分に賄える状況ではありません。先ほど説明しました子ども分野や文化芸術分野も含め、全体をカバーする形で事業を実施していますが、こうした活動に対して補助を受けることは、なかなか難しい状況です。</p> <p>今年度も、文化庁の伝統芸能体験に関する事業に応募しました。内容としては、コミュニティの中で子どもたちに狂言を体験してもらおうというものでしたが、残念ながら採択には至りませんでした。伝統芸能は、子どもたちが普段なかなか触れる機会がない分野であり、特に狂言などは、子どもたちが見ても面白さを感じられるものではないかと思っています。そのため、今後も毎年チャレンジし、ぜひ子どもたちに体験してもらいたいと考えています。</p> <p>一言補足します。この点は、先ほど委員がおっしゃった話にも関係しますが、私が子どもの頃には「子ども劇場」や「親子劇場」という活動がありました。この運動は、福岡市が発祥だったかと思います。</p> <p>私が小学生、中学生の頃には、能楽や演劇などを鑑賞する子ども劇場の会員が一定数いました。私自身も、狂言を学校で見たことがあったかもしれませんが、子ども劇場を通じて能楽や音楽公演などを見に行った記憶があります。当時は、バイオリニストの公演などもあり、さまざまな文化芸術に触れる機会がありました。</p> <p>ただし、それは行政がすべて用意するものではなく、毎月会費を払って参加する形であり、どちらかというと自助による取り組みでした。文化芸術の分野でも、かつては家庭や地域が自ら支えていた部分がかなりあったのだと思います。</p> <p>また、ある程度の規模になると、筑豊、直方、飯塚などの子ども劇場が持ち回りで公演を行い、バスを仕立てて見に行くこともありました。コスモスコモンや香春方面に行くようなこともあったと思います。</p> <p>私の子どもの頃は、今よりも家庭に余裕があったのかもしれませんが、各家庭が月会費を支払い、文化芸術に触れようとする仕組みがありました。しかし、私が中学生になった頃には、子ども劇場が閉じたと記憶しています。筑豊直方駅の近くに最後の拠点があったと思いますが、そうした活動がなくなっていったことで、学校や行政に対して「文化体験を提供してほしい」という期待が強まっていくのは、ある程度やむを得ない面もあるのかもしれない。</p>
-------------	--

<p>(委員)</p>	<p>一方で、市役所としてもすべてを引き受けることは難しいはずですが。そのため、この点は非常に難しい課題だと感じながら伺っていました。</p> <p>待っていても予算が自然に出てくるわけではないと思います。そのため、戦略的に例えば、「直方市は能楽や伝統芸能に力を入れていく」というような姿勢を示し、さまざまな助成金に応募して、まずは事業を動かしてみる事が大切ではないかと思います。</p> <p>実際に取り組みを進め、「直方市はこの分野に力を入れている」というイメージを持ってもらうことができれば、他の自治体も同様の取り組みを検討するかもしれません。ぜひ、少し積極的に取り組んでみてもよいのではないかと思います。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>今、皆さまからさまざまなお話をいただく中で、文化芸術振興計画ができていくのだと感じています。こうした体験活動が大切であるというご意見については、しっかり受け止めています。</p> <p>今後、この計画をもとに予算要求を行っていくことになると思います。その際には、この会議でいただいたご意見も大きな後ろ盾になると考えていますので、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>ありがとうございます。</p>
<p>(会長)</p>	<p>ご承知のことと思いますが、計画を策定した後は、数年間にわたり審議会がその進捗を確認し、計画がきちんと実装されているかをチェックしていくこととなります。それが、この審議会の次の役割になっていくと思います。</p> <p>その中で、委員の皆さまからもご発言いただき、必要に応じて意見を出していただければと思います。</p> <p>おおむね 45 分頃までをディスカッションの時間としておりましたので、最後にどうしても一言発言しておきたいということがございましたら、お受けしたいと思います。いかがでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>本日は、学校教育課の皆さまから率直なご意見を多数いただき、誠にありがとうございました。本日いただいたご意見は、「文化芸術×教育」の連携の視点として、今後の計画案に一部反映していくことになると思います。事務局には一度整理していただくことになるかと思いますが、お手数をおかけしますがよろしく願いいたします。</p> <p>本日はお忙しい中ご協力いただき、またご足労いただきまして、誠にあ</p>

<p>(事務局)</p>	<p>りがとうございました。大変参考になりました。今後も、こちらからお願いやご相談をさせていただくことがあるかと思いますが、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>次回以降も、さらに計画を深めてまいりたいと思いますので、皆さまのご協力をお願い申し上げます。</p> <p>なお、次回以降の進め方については、まだ詳細を十分に確認できていない部分もありますが、今回は6月下旬を予定していたかと思います。それでは、ここで事務局にお渡ししたいと思います。</p> <p>本日は、お忙しい中ご出席いただき、また貴重なご意見を多数いただきまして、誠にありがとうございました。委員の皆様には、日程調整等につきましても、いつもご協力いただいておりますこと、重ねて感謝申し上げます。引き続き、直方市文化芸術振興計画の策定に向け、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>まず、次回第5回審議会の日程についてご連絡いたします。</p> <p>今回の第5回審議会は、6月26日(金)14:00~16:00、直方市中央公民館2階第1学習室にて開催予定です。日程が近づきましたら、今回同様、開催案内及び会議資料をお送りいたしますので、ご確認をお願いいたします。</p> <p>なお、6月に入りましたら、7月開催予定の第6回審議会の日程調整も行っていきたいと考えておりますので、ご多忙のところ恐れ入りますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>また、次回第5回審議会の協議内容につきましては、「文化芸術×まちづくり」をテーマに進めていきたいと考えております。ただ「まちづくり」というテーマは非常に幅広いため、今回は商店街を中心とした直方市中心市街地のまちづくりに焦点を当て、振興計画の検討を進めていきたいと考えております。さらに、音楽や演劇分野の視点も踏まえた協議を行いたいと考えております。なお出席いただく方につきましては、直方市企画経営課、商店街で活動されている日本楽器工房の方、須崎町商店街を拠点に演劇文化の発信を続けている直方市民劇場の方、また、直方市商店街五日市実行委員の方などをお招きする予定です。詳細につきましては、改めてご連絡いたしますので、ご確認をお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、第4回直方市文化芸術審議会を終了いたします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>
--------------	---

直方市文化芸術審議会 第4回会議 議事録